Digital Archives for Architectural Space

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

第10期（2015-2016年）総会

開催日時　2015年年10月21日（水）午後3時00分より午後4時30分
開催場所　都道府県会館　4階　410会議室

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム（DAAS）

第10期（2015-2016年）総会次第

開催日時：２０１５年年１０月２１日（水）午後３時００分より午後４時３０分
開催場所：都道府県会館　４階　４１０会議室

１　開会挨拶（予定）
　　芦原　太郎　建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム　理事長

２　来賓挨拶（予定）
　　国土交通省　住宅局　建築指導課

３　議　　事

議案１　　第 9 期（2014-2015 年）事業報告(案)及び収支決算(案)について
　　資料 1　　第 9 期（2014-2015 年）事業報告(案)
　　資料 2　　第 9 期（2014-2015 年）収支決算(案)
監査報告
　　資料 3　　監査報告書

議案２　第 10 期（2015-2016 年）事業計画（案）及び収支予算(案)について
　　資料 4　　第 10 期（2015-2016 年）事業計画(案)
　　資料 5　　第 10 期（2015-2016 年）収支予算(案)

４　報　　告
　　資料 6　　会員名簿変更について
　　資料 7　　規約第７条第４項に基づく指定代表者の変更について

５　閉　　会

議案1　第 9 期(2014-2015 年)事業報告(案)
及び収支決算(案)について

資料1　第 9 期(2014-2015 年)事業報告(案)

資料2　第 9 期(2014-2015 年)収支決算(案)

監査報告

資料3　監査報告書

資料１

第 9 期(2014-2015 年)事業報告(案)

1. 概要

DAAS の基本活動である「Web サイト等基本システムの維持・管理」、「収蔵データの維持・保全」を継続しつつ、運営委員会の下に設置した「企画運営部会」における検討を経て、第 9 期事業計画に基づいた各事業を推進した。「企画運営部会」では、会員拡大や今後の事業展開を視野に入れた中期計画の検討、意見収集を行っており、第10期においても引き続き収蔵方針を検討しながら、第 9 期継続事業の実施を目指す。

今期は、第8期「DAAS 運営基盤安定化検討 WG」における検討の結果、「企業会員の会費減額」を実施した初年度であったが、国庫補助による収入と、事業効率化や経費削減策を講じたことにより、単年度黒字を達成することができた。今後も、予算に応じ、効率的な事業を推進すること等により、安定した組織運営を目指すものとする。

2. 事業実施状況

(1) Web サイト等基本システムの維持・管理

第 8 期において、サーバ環境更新及びセキュリティ対策を実施。第 9 期においては、サーバ OS、周辺アプリケーションのセキュリティ対策プログラムを定期的に適用する等、サーバ保守業者とともに、サーバ環境のセキュリティ対策を継続した。

(2) 収蔵データの維持・保全

Web サイト公開用画像データとは別に維持・保全している「高精細画像データ」について、データ破損、消失を防ぐ目的で、事務局内保管分(RAID 環境よる冗長性担保)のほか、外部のデータ保管専門業者のサービスを利用し、さらなる冗長性を確保し、データ維持・保全を行った。

(3) 運営基盤の安定化に資する検討体制確立と継続検討

第8期、運営委員会のもとに設置した「運営基盤の安定化方策検討 WG」の名称を「企画運営部会」へ変更し、運営委員会と連携しつつ、今後の DAAS 活動に資する検討や、一層の運営基盤安定化検討の体制を確立した。

①運営基盤の安定化方策検討(継続)

②事業計画に基づく事業実施や企画検討

③その他、運営委員会承認事項の事前検討 等

「企画運営部会」の開催状況、検討事項は別紙1のとおり。

(4) コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

第8期同様、コンテンツ作成支援金(国庫補助金 300 万円)を活用し、「企画運営部会」において検討を進めた。第 9 期の成果については別紙2にて詳細を報告する。

なお、コンテンツ作成支援金を活用したコンテンツの整備は、国庫補助事業の実施年度とDAASの事業年度が一致しないことから、第10期継続事業として進める。

［第10期継続:コンテンツ整備事業（予定）］

・団体等受賞作品の収蔵
・動画収録（DAAS収蔵作品の建築家、アーカイブス運営者等）
・VR（ヴァーチャルリアリティ）を利用した空間画像データ
・東日本大震災以来休止していたデジタル卒業設計大賞の実施
・作品選考会等の動画制作

(5) Webサイトの改善

新規コンテンツ収蔵（(4)で制作したコンテンツ）に必要な新規ページの制作を行った。その他、WEB サイト機能追加、検索機能の改善のための機能追加等は、「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第10期継続事業とする。

(6) その他

①オープンアライアンス活動

オープンアライアンスとは、デジタルアーカイブスの必要性、重要性などについて、同じ目的を持つ異なる複数の企業・団体の集合体であり、かつ、それがオープンな状態であることを意味する。DAASとしては、アーカイブス活動実施機関等とのつながりを持つべく、これまでも意見交換等を実施してきた。今期は、一社）建築学会の全国大会配付資料と　公社）日本建築士会連合会の会誌へ、DAAS の現状と課題をテーマに寄稿。コンテンツでの各アーカイブへのインタビューや、当該全国大会における意見交換等を通じ、様々なアーカイブ活動機関との連携のきっかけとなることを期待したい。

②その他DAASの目的に資する活動状況

1）有償利用について

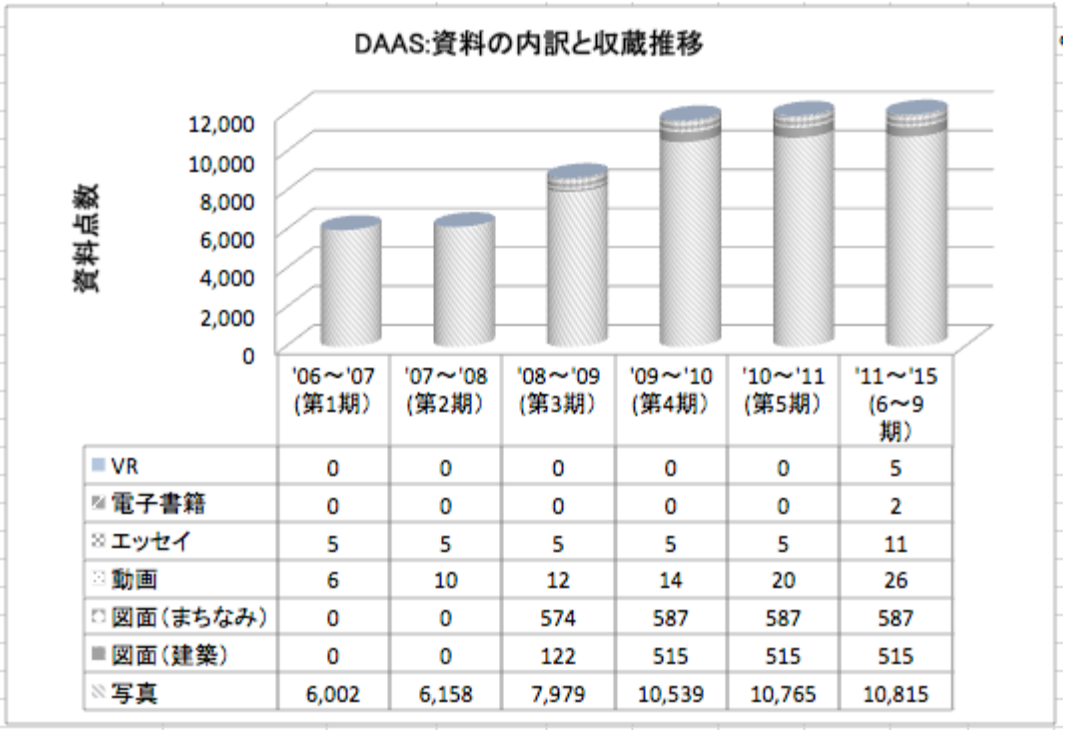
データの有償利用については、以下国内外から 13 件の申し込みを受けた。雑誌や図版、会誌、社内誌等の書籍への掲載、展示等、利用内容は様々であるが、雑誌、新建築社に掲載された写真としての問合せが多数ある。褪色補正をしたデジタルデータをDAASで保持していることは、利用者への問合せやデータ納品の対応もDAASで早急にできるため、版権保持者の新建築社、利用者、双方に利用しやすいシステムである。しかしながら、支払いに関して、新建築社とDAAS、それぞれから請求書を送付する形であるため、手続きが煩雑となる。利用者が増えた際に請求方法の見直しが必要となると予想される。60～70 年代の日本建築の価値が海外で見直されているため、海外でのデータ利用のニーズが高まると予想される。海外からのデータ利用の申込みの対応、特に費用の支払いに関しての対応は、利用者の利便性を優先したサービスの導入を第10期で検討する。

- カーサ・ブルータス ，光村図書，谷口建築研究所，Tufts University，雑誌「庭」（出版：建築資料研究社），エヌワイアソシエイツ，OM ソーラー，日本アートセンター/小学館，Tao_Baerlocher，増田友也生誕 100 周年記念事業，建築画報社，HarvardGDS 、一般財団法人日本建築センター
- その他金沢21世紀美術館（DAAS interview 内田祥哉氏 英語版）

(7) 設立から第9期までの DAAS の活動と登録者、閲覧者数の推移（報告）

①資料収蔵数推移（累計）

第3期～第5期はUIA 世界大会に向けた国庫補助金の活用により、人員を導入し、整備をすすめたため、大きな資料収蔵の伸びがあった。第6期以降は同事業の残務や JIA 環境建築賞、日事連賞など、団体会員の協力により収蔵数の増加による変化は若干である。アーカイブ整備にかかる人員と費用の確保は依然大きな問題である。



	'06～'07（第1期）	'07～'08（第2期）	'08～'09（第3期）	'09～'10（第4期）	'10～'11（第5期）	'11～'15（6～9期）
VR	0	0	0	0	0	5
電子書籍	0	0	0	0	0	2
エッセイ	5	5	5	5	5	11
動画	6	10	12	14	20	26
図面（まちなみ）	0	0	574	587	587	587
図面（建築）	0	0	122	515	515	515
写真	6,002	6,158	7,979	10,539	10,765	10,815

②Web サイトアクセス数推移・DAAS-Web サイト登録者数推移（累計）

レンタルサーバー移行後、2013 年 6 月（第7期後半）よりアクセス数の統計サイトを新規設定。

表内の「訪問者数」に対し「訪問数」は「延べ数（同一 IP からのアクセス数）」である。

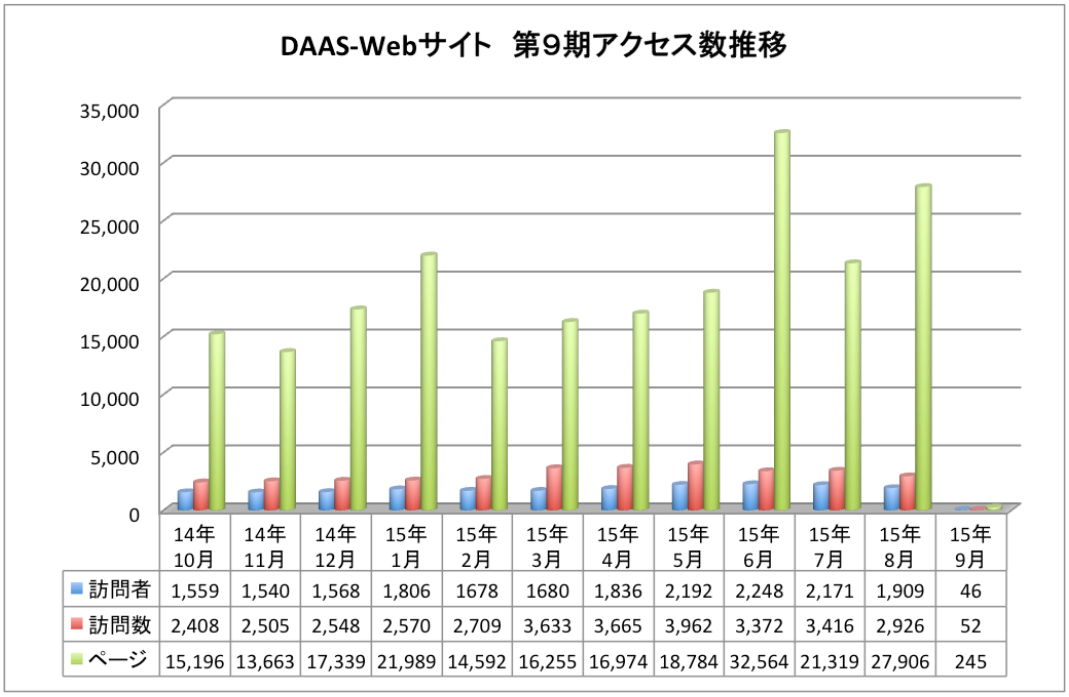
第9期のみの累計としては、訪問者数 20,233 人、延べ訪問数 33,766 人である。

訪問者数が伸びている1月、6月、8月に関して、1 月は卒業設計大賞の申し込みの告知によるもの、8月は、卒業設計大賞の動画、及び新規コンテンツ掲載の SNS での告知によるものではないかと推察されるが、6月についてはコンテンツ掲載や、募集、告知等に連動しない独自のアクセス数の伸びとなった。

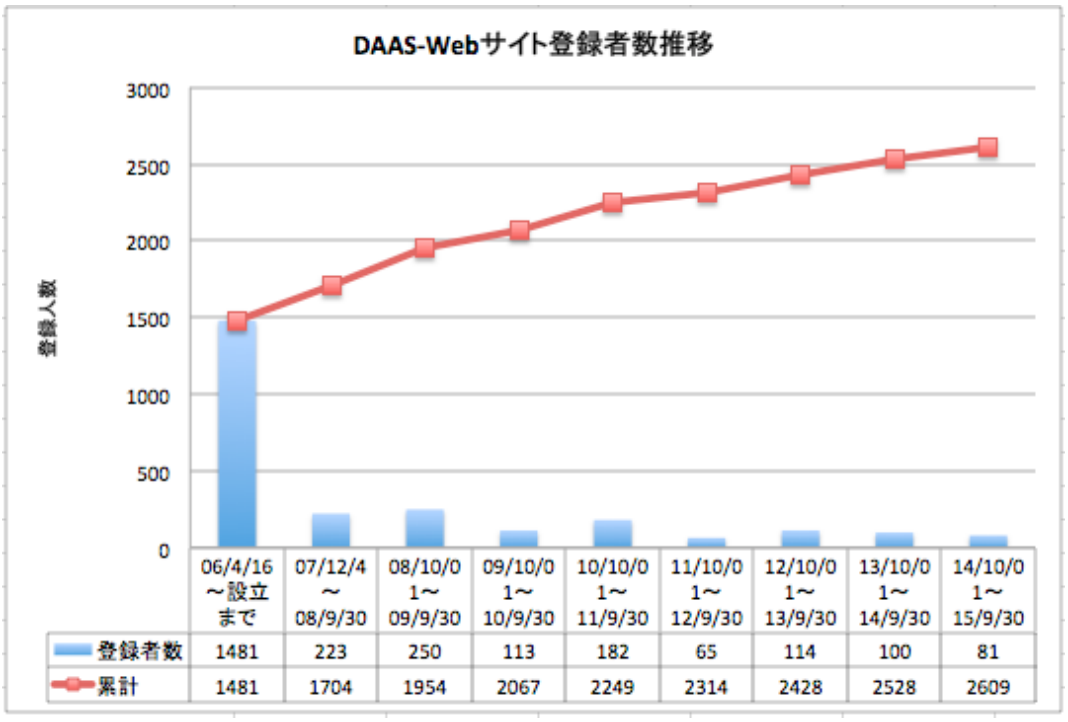
第8期訪問者数 14,527 人、延訪問数 21,365 人と比較し、 訪問者数は年間で約5,700、述べ訪問数は 12,000（9月末にて再集計のため変更予定）の増加となった。

DAAS-Web サイトの閲覧のための会員登録者数は平均して伸びている。登録者の傾向としては、学生、建築関係者、メーカーや不動産といった建築関連の方、書籍や展示利用を目的とした資料確認の閲覧者である。

（8月末現在のため、9月末に再度集計をして数字を変更予定）。



	14年10月	14年11月	14年12月	15年1月	15年2月	15年3月	15年4月	15年5月	15年6月	15年7月	15年8月	15年9月
訪問者	1,559	1,540	1,568	1,806	1678	1680	1,836	2,192	2,248	2,171	1,909	46
訪問数	2,408	2,505	2,548	2,570	2,709	3,633	3,665	3,962	3,372	3,416	2,926	52
ページ	15,196	13,663	17,339	21,989	14,592	16,255	16,974	18,784	32,564	21,319	27,906	245



	06/4/16～設立まで	07/12/4～08/9/30	08/10/01～09/9/30	09/10/01～10/9/30	10/10/01～11/9/30	11/10/01～12/9/30	12/10/01～13/9/30	13/10/01～14/9/30	14/10/01～15/9/30
登録者数	1481	223	250	113	182	65	114	100	81
累計	1481	1704	1954	2067	2249	2314	2428	2528	2609

別紙1

「DAAS 企画運営部会」の設置について

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

1 背景等

建築空間デジタルアーカイブス コンソーシアム(以下「DAAS」)第 8 期に於いて、運営委員会のもとに「DAAS 運営基盤の安定化検討 WG」を設置し、以前からの課題であった「運営基盤の安定化」について集中討議した結果、運営基盤安定化に関する一定の成果が得られた一方で、次期以降の課題も明確になったところである。次期以降の課題については、先日の総会で承認を得た「第9期(2014-2015 年)事業計画」のとおり、運営委員会のもとに**「DAAS 企画運営部会(仮称)(以下「部会」という)」**を設置し、検討することとされた。

今回、部会設置と具体検討開始に向け、実施方法、構成等について提案する。

2 実施方法(案)

・DAAS 運営委員会との連携のもとに**部会**を設置し、会員参加によるDAAS 運営、活動に関する検討を行う。(別紙:部会構成案)。

・部会は、DAAS 会員を中心に委嘱により構成し、構成の変更は、運営委員会の承認を得て適宜実施する。

・部会主査、委員等の委嘱期間は単年度単位とする。

・部会検討結果は、定期的に開催される運営委員会へ適宜報告する。

・なお、部会検討に際し必要な集中的調査・作業が発生する場合、検討の合理性を考慮し、必要に応じ外部委託をすることも可能とする。ただしこの場合、発注前に運営委員会の承認を得るものとする。

3 部会検討事項(案)

1. 運営基盤安定化に向けた検討体制の確立に関する事項
2. DAAS 活動の継続と拡大に関する事項(事業計画に基づいた事業の企画と実施方法の検討等)
3. 他機関との連携に関する事項
4. その他、DAAS 運営、活動に関する事項

当面の課題として以下

・「会員拡大」に繋がるコンテンツ成果の検討

・継続的国庫支援の要請 等

4 開催頻度(案)

・部会開催頻度は、年3, 4回程度を予定

(原則、奇数月又は偶数月に定例開催とすることを推奨)

調査検討項目	2015 年度	
	7～9 月	10～12 月
部会開催	○ ○ (7・9月)	○ (11 月)
運営委員会開催	●	●

別　紙

DAAS 企画運営部会構成

主　査	竺　　覚暁	一般社団法人日本建築学会 （金沢工業大学教授・同大学ライブラリーセンター館長・建築アーカイヴス研究所長）
幹　事	三塩　達也	建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム運営委員長 （株式会社日本設計執行役員 第 2 建築設計群長）
委　員	鰺坂　　徹	公益社団法人日本建築家協会 （鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻教授）
〃	鈴木　長則	公益社団法人日本建築士会連合会 （東京建築士会　世田谷支部長）
〃	今倉　章好	一般社団法人日本建設業連合会
〃	中田　千彦	公立大学法人宮城大学事業構想学部准教授
協力委員	原田　佳道	国土交通省住宅局建築指導課企画専門官
〃	山名　善之	東京理科大学工学部建築学科准教授
オブザーバー	芦原　太郎	建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム 理事長 （公益社団法人日本建築家協会　会長）
事務局	山崎　幹泰	金沢工業大学 環境・建築学部建築系准教授
	武藤　奈津子	建築･空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

（委員、協力委員については順不同、敬称略）

注：委員、協力委員の位置づけなど、会員、関係機関と調整中のため、変更することがあります

経過報告(開催状況・検討事項) 2015/9 月現在

2015 年 5 月:　国土交通省にて WG の報告書を提出。
・WG 設置による成果とその具体的効果を口頭にて説明。
・WG での検討事項を引き継ぎ、部会にて議論を進める旨報告。
・その他　運営とコンテンツ制作にかかる今後の方針等意見交換

2015 年 7 月:　第1回企画運営部会の開催。
・企画書案に基づき、部会設置の主旨、検討事項の再確認
・WG 成果報告
・当面の課題について委員の意見を確認。
・コンテンツ収蔵ポリシー、企画案、連携、補助金の要請等について意見招集

2015 年 8 月:　運営委員会開催。
・企画運営部会の設置と検討事項、意見等の報告

2015 年 9 月:　第 2 回企画運営部会の開催。
・予算を含めた第10期計画の検討
・運営委員会承認事項、第10期総会資料の検討

2015 年 9 月:　運営委員会開催。

別紙２

建築・空間デジタルアーカイブス登録用コンテンツの作成等業務

報告書（抜粋）

2015 年 3 月

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

目　　次

目次

はじめに *2*

目　次 *3*

1.　業務の目的 *6*

1.1.　建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアムの活動について 6

1.2.　本業務の内容と目的 6

2.　制作するコンテンツの概要 *7*

2.1.　制作コンテンツ概要及びコンテンツの公開に係る作業概要 7

2.1.1.　インタビューコンテンツ(オーラルアーカイブ)制作 *7*

2.1.2.　VR(バーチャルリアリティー)を使った空間画像データの制作 *7*

2.1.3.　建築関連団体の受賞作品のデータ整備、DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録　7

2.1.4.　WEB サイト機能追加・改修　コンテンツの WEB 掲載作業概要 8

2.2.　インタビューコンテンツ(オーラルアーカイブ)制作概要 8

2.2.1.　収録主旨 *8*

2.2.2.　コンテンツの閲覧対象者 *8*

2.2.3.　動画概要 *8*

2.2.4.　収録方法 *8*

2.3.　VR(バーチャルリアリティー)を使った空間画像データの制作実施概要 9

2.3.1.　収録主旨 *9*

2.3.2.　コンテンツの閲覧対象者 *9*

2.3.3.　コンテンツ内容 *9*

2.3.4.　収録方法 *9*

2.4.　建築関連団体の受賞作品のデータ整備、DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録コンテンツ内容 10

2.4.1.　収録方法 *10*

2.5.　WEB サイト機能追加・改修　コンテンツの WEB 掲載作業概要 10

2.5.1.　機能追加・改修　Web 掲載作業内容 *10*

3.　インタビューコンテンツ(オーラルアーカイブ)制作詳細及び成果報告 *11*

3.1.　インタビュー対象者及び所属アーカイブ団体 11

3.2.　収録方法・行程詳細 11

3.2.1.　インタビュー企画の趣旨説明及び事前打合せ *11*

3.2.2.　企画内容の決定 *11*

3.2.3. 編集作業 25
3.3. 成果報告 25
3.3.1. 芦原太郎氏 動画コンテンツ(オーラルアーカイブ) 25
4. VR(バーチャルリアリティー)を使った空間画像データの制作詳細及び成果報告 26
4.1. 撮影対象箇所の選定 26
4.1.1. 銀座シネパトス 26
4.1.2. 池田武邦邸 26
4.2. 収録方法 詳細 26
4.2.1. 撮影及び編集方法 26
4.2.2. 映像の Web サイト公開用編集業務 26
4.2.3. 音声収録 26
4.3. 成果報告 27
4.3.1. 銀座シネパトス 27
4.3.2. 池田武邦邸 28
5. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備、DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録 29
5.1. 収録方法 詳細 29
5.1.1. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備 29
5.1.2. DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録 29
5.2. 成果報告 29
5.2.1. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備 29
5.2.2. DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録 29
6. WEB サイト機能追加・改修 コンテンツの WEB 掲載作業概要 30
6.1. 機能改修・追加 コンテンツの WEB 掲載作業概要 30
6.1.1. 表彰事業のデータ収集と掲載のための整備 30
6.2. プログラム設計 30
6.2.1. 稼働環境 30
6.2.2. 対象ブラウザー 30
6.2.3. 作成コンテンツ 31
6.3. テンプレート制作 31
6.3.1. 表彰事業用テンプレート 31
6.3.2. Wordpress 内での設定内容 31
6.3.3. 動作内容 31
6.4. DAAS 表彰事業 募集要項 ページ 32
6.4.1. 使用テンプレート 32
6.4.2. 表示イメージ 32
6.5. DAAS 表彰事業 作品応募ページ 33
6.5.1. 使用テンプレート 33
6.5.2. 表示イメージ 33

6.6. DAAS 表彰事業 作品受付完了ページ 34
6.6.1. 使用テンプレート 34
6.6.2. 表示イメージ 34
6.7. 掲載用ページ制作と掲載作業 35
6.8. 成果物について 36
7. 報告書添付資料（書類リスト） 37
7.1. インタビューコンテンツ（オーラルアーカイブ）制作成果物として 37
7.1.1. 芦原太郎氏 インタビュー書き起こし・ロケーションインタビュー書き起こし 37
7.1.2. 芦原太郎氏 撮影に利用した資料等一覧 37
7.1.3. 芦原太郎氏 編集用デザインデータ一覧 37
7.2. VR(バーチャルリアリティー)を使った空間画像データの制作における参考資料 37
7.2.1. 池田武邦氏 自邸 雑誌掲載等参考書類一式 37
7.3. DAAS デジタル卒業設計大賞の開催成果物 37
7.3.1. 報告資料一式 37
8. 報告書添付納品物について（HD 内電子データ一覧） 38
8.1. 本報告書及び添付資料一式 38
8.2. インタビューコンテンツ（オーラルアーカイブ）制作成果物 38
8.2.1. 芦原太郎氏 動画データ 38
8.3. VR(バーチャルリアリティー)を使った空間画像データの制作成果物 38
8.3.1. 銀座シネパトス 38
8.3.2. 池田武邦邸 38
8.4. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備、DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録コンテンツ内容 38
8.4.1. 日事連受賞作品 建築情報・人名・会社名・表彰情報 各データ 38
8.4.2. DAAS デジタル卒業設計大賞 2014 コンテンツデータ一式 38

3. インタビューコンテンツ(オーラルアーカイブ)制作詳細及び成果報告

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

3.1. インタビュー対象者及び所属アーカイブ団体

芦原　太郎氏

所属団体:公益社団法人日本建築家協会(会長)、建築・空間デジタルアーカイブス(理事長)、芦原太郎建築事務所　代表、NPO 建築文化継承機構　理事

3.2. 収録方法・行程詳細

3.2.1. インタビュー企画の趣旨説明及び事前打合せ

撮影対象者へ協力依頼をし、趣旨・企画内容の説明、及び必要な情報の確認、撮影場所等について、打合せをし、収録内容等を決定した。

3.2.2. 企画内容の決定

(ア) 伝えたい事　:「アーカイブ」への思い、とは

(イ) 収録内容

【導入】【メインテーマ:「想い」】

資料保全への思いについて(芦原義信氏のアーカイブ整備)

芦原先生が長く続けてこられた、芦原義信先生のアーカイブの整備について伺う

「後世に作品を残す事」という思いはどのようなきっかけで生まれたのか。

(「何故資料保全が必要か」アーカイブ活動について、建築界の方々だけでなく、広く、学生や一般の方々へ理解を深めるための言葉を頂きたい。)

アーカイブを整備する上での問題点

武蔵野美術大学でのアーカイブ整備のきっかけとは

JIA で立ち上げた NPO 法人の代表としての想い

ご自身の建築家として作品を残す事への想い

【結びとメッセージ】

多くの団体の代表として重要な役割を担っている芦原先生が様々なアーカイブの今後について、意見、メッセージを頂く

DAAS、国立近現代資料館、各大学アーカイブ等々が描くべき未来像とは？芦原先生にお考えを伺う。(連携等)

(ウ) 映像制作の目的:想い、メッセージを伝える

アーカイブが必要である事、どのような活動か、建築に従事する方々、一般の方々、下院等に DAAS の活動やその他のアーカイブ活動を広く知ってもらう

（エ）収録方法

撮影自体は半日、インタビューは約2～3時間程度。その他アーカイブ活動の現場撮影（ロケーション）を行う

（オ）その他

必要な挿入資料の所在確認、ロケーション場所への撮影許可確認、撮影スケジュールの調整、編集時の進行チェック、また、インタビュア・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料の作成（以下 （ケ）に添付）は DAAS 事務局にて行う。また撮影会社への指示、デザイナーの指示のとりまとめも DAAS 事務局で行う。撮影は、撮影会社への依頼を行い、編集時に利用するタイトル、テロップ等の作成は、デザイナーに依頼する。

（カ）本編撮影場所：芦原太郎建築事務所（※1～2F のギャラリー or 6～7F のオフィスにて）

（キ）ロケーション撮影場所：武蔵野美術大学 美術館・図書館/武蔵野美術大学 造形研究センター

（ク）撮影対象者及びクルー

インタビュア ：三塩達也氏（DAAS 運営委員長）撮影
撮影 ：後藤大輝氏（すみだクリエイターズクラブ）
ディレクター ：三田大介氏（すみだクリエイターズクラブ）
：樋口珠由子氏 （すみだクリエイターズクラブ）
デザイナー ：秋山伸氏（有限会社エディションノルト）
事務局 ：武藤奈津子（DAAS）
ロケーション：武蔵野美術大学

（ケ）資料：インタビュア・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料

資料1_別添	**インタビュー内容（シナリオ）**	※芦原先生・インタビュア資料
資料2_別添	**関係資料所在・関係者連絡先、等**	※スタッフ資料
参考資料1	**芦原太郎氏プロフィールと主な作品**	※インタビュア資料
参考資料2	**芦原義信氏プロフィールと主な作品**	※インタビュア資料
参考資料3	**芦原義信氏と武蔵野美術大学**	※芦原先生・インタビュア資料
参考資料4	**各アーカイブのまとめ**	※芦原先生・インタビュア資料
撮影資料1	**芦原義信氏・太郎氏作品**	※インタビュア・スタッフ資料
撮影資料2	**芦原義信氏作品 駒沢公園:駒沢オリンピック公園総合運動場**	※インタビュア・スタッフ資料
撮影資料3	**武蔵野美術大学ロケーション資料**	

4. VR(バーチャルリアリティー)を使った空間画像データの制作詳細及び成果報告

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

4.1. 撮影対象箇所の選定

4.1.1. 銀座シネパトス

大型のシネマコンプレックス等の出現や、建物の老朽化などの問題により旧作映画を上映する「名画座」が姿を消している。銀座シネパトス(東京都中央区銀座4丁目)も地下街の耐震性に問題があることから2013年3月31日に閉館した。
現存する日本の地下街として最も古いと言われていた1952年に整備された三原橋地下街という特徴のある場所に置かれた映画館とその周辺の風景を収録。

4.1.2. 池田武邦邸

株式会社日本設計の設立に関わった建築家、実業家である池田武邦氏の1959年に建てられた渋谷区の自邸取り壊しが決定されたため、解体工事前に各居室の撮影を行った。

4.2. 収録方法 詳細

4.2.1. 撮影及び編集方法

高精細画像が収録可能な映像機材にて、連続した画像を撮影する。

4.2.2. 映像の Web サイト公開用編集業務

DAAS-Web サイト上で操作した際に、方向転換、視点レベルの変更等の動作が可能な全方位を見渡す VR(バーチャル・リアリティ)データに編集(オーサリング)する。各種ブラウザーで動作できるようなものとする。

4.2.3. 音声収録

現在の状況として周辺の音声についても可能であれば収録し、画面操作時に再生ができるよう編集をする。

4.3. 成果報告

4.3.1. 銀座シネパトス

2013 年 3 月時点の画像を再編集。下記画像は編集に使用した一部画像。

晴海通りの地下を横切るように存在する『銀座シネパトス』。

江戸時代に整備された河川「三十間堀川」を戦後の瓦礫処理で埋め立てて出来た銀座四丁目の三原橋地下街。1967 年にその地下街に「銀座地球座」として、翌年「銀座名画座」として開館。1988 年に現在の「銀座シネパトス 1・2・3」と名称を変え、地下街の商店街とともに、一つの風景をつくってきた。

三原橋地下街の当初の名称は南側が三原橋観光館Ａ館、北側が三原橋観光館Ｂ館の設計者は土浦亀城。

2014 年 3 月、保存・再生を願う学生らの呼びかけをきっかけに、建築家や研究者らが「三原橋の将来を考える会」を発足し、地下街を残す可能性を探っていたが、2014 年 5 月に解体工事が始まった。

日本建築家協会からは都知事、区長あてに三原橋センターは歴史的・文化的・都市景観的にも価値のあるもの」として、未来へ伝えるための検討委員会を設置するよう要望。

※ 取り壊し直前の画像を 2015 年 3 月再編集.下記画像は編集に使用した画像を Web ブラウザー上で表示したイメージ。

※ これ迄にDAAS で収録して来たデータの表示形式に加え、地図機能を追加。撮影箇所、現状見ている視点の向き等が確認出来るようにしている。

※ Web コンテンツとしてのデータを 8. 報告書添付納品物（HD内電子データ）の通り、ハードディスクに収録・納品（音声はなし）

4.3.2. 池田武邦邸

日本設計の設立に関わった建築家、実業家である池田武邦氏の 1959 年にたてられた渋谷区の自邸。池田氏自身により設計され、家族の成長に伴い改築された住宅である。書籍等に掲載されただけでも第 5 期の 1989 年まで改築が繰り返された最小限ローコスト住宅。2015 年 3 月全面建替えによる取り壊しが決定。改築前の数日で VR の撮影を決定。池田氏により改築されていない部分も含んでいた為、原設計の様子がわかる箇所を出来る限り収録を行った。データはハードディスクに収録・納品。音声データはなし。

※ Web の公開・非公開については個人宅の為権利者との調整を後日行う事としている。

※ 建物詳細の参考書類を本報告書 7. 報告書添付資料(書類)参照。Web コンテンツとしてのデータを 8. 報告書添付納品物(HD内電子データ)の通り、ハードディスクに収録・納品(音声なし)

5. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備、DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

5.1. 収録方法 詳細

5.1.1. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備

日本建築士事務所協会連合会の顕彰事業の受賞作品の掲載について了解をえられたため、これまで収録した 2008 年以降、2013 年までの受賞作品の詳細を調べ、DAAS-Web サイトへの掲載準備の為のエクセルデータを作成。
DAAS-Web サイトは「建物」のIDだけでなく「人名」「会社・団体名」「受賞情報」がそれぞれ ID をもっており、ID毎に詳細情報をもつことができるため、受賞作品の「建築情報」の整備と併せて、受賞作品の「設計者」「設計事務所」「施工会社」受賞作品の「受賞情報（年・受賞内容 等々）をそれぞれ整備をした。

5.1.2. DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録

顕彰事業については設立当初より開催し東日本大震災以後のサーバやシステム環境の不具合、人員不足、等々により休止していた「DAAS デジタル卒業設計大賞」のを開催。選考委員は DAAS 理事長芦原氏に依頼。応募要項を確定し、Web サイトでの告知、卒業制作の受入方法などを事務局にて検討。運営委員会の承認を得て、2014 年 12 月に募集を開始し、Web サイトでの告知、受賞作品の受領、第一次選考・第二次選考、表彰式等を行った。

5.2. 成果報告

5.2.1. 建築関連団体の受賞作品のデータ整備

受賞作品の「建物情報」「人名」「会社・団体名」「受賞情報」のデータを整備
データを7. 報告書添付納品物（HD内電子データ）の通り、ハードディスクに収録・納品

5.2.2. DAAS 独自の顕彰事業の実施とコンテンツ収録

実施詳細・収録コンテンツ詳細については、7.本報告書添付資料にて提出。データは 8. 報告書添付納品物（HD内電子データ）の通り、ハードディスクに収録・納品

DAAS デジタル卒業設計大賞 2014 報告書

[2015.3.6]

デジタル卒業設計大賞　開催の目的と実績

開催目的

2007 年の設立以来、建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）は、これからの建築界で活躍が期待される若い学生・建築家・デザイナーの卒業制作作品を対象とした「デジタル卒業設計大賞」を開催してきました。

すでに設計のツールもプレゼンもデジタルデバイスなしには行えませんが、その状況下で「デジタル」という言葉を再解釈、再評価し、多様な取り組みに光をあてることになればという目的と、また建築を学ぶ学生への DAAS の普及・広報としても有用な DAAS の表彰事業と捉えています。

これまでの実績として第 1 回目は、隈研吾先生、第 2 回目は六角鬼丈先生、第 3 回目は難波和彦先生、第 4 回は古谷誠章先生をそれぞれ選考委員としてお招きし、作品の講評を頂きました。

回を重ねる毎に、様々なツールを利用した作品の提出、海外で学んだ学生の作品など、多様な作品が見られ、設計時にデジタルツールを利用するだけでなく、ITの特性である蓄積の機能、SNS 等のコミュニケーション機能をもったツールの利用、動画等を利用した時間の経過・視点の変化の表現など、「デジタル可能性を感じさせる」作品が増え、当初想定した以上の DAAS 独自の表彰事業としての特色がみられるようになってきました。

しかしながら、第 4 回の「DAAS デジタル卒業設計大賞 2010」（2011 年 3 月に懇親会を開催）開催後、震災後のサーバトラブル、システム環境の改修の必要、人員不足等々の理由が重なり本イベントは休止せざるを得ない状態となっておりました。

会員や学生などからの要望もあり、また今期、コンテンツ作成等業務の支援を得られることとなり、改めて新しい体制と人員を確保し再開することとなりました。

これまでの実績・受賞作品等

デジタル卒業設計大賞 2007

選考委員　DAAS 理事　隈　研吾氏

懇親会　2008 年 2 月表彰 於：隈研吾建築都市設計事務所

作品紹介　http://www.daas.jp/wp-content/uploads/2010/10/dgtaisho2007.swf
最終選考　6 名
隈研吾賞　平田杏子（宮城大学）25.7km の記憶

故郷の宮城県北部の栗駒町（現：栗原市）の４町をつなぐ 25.7ｋｍの「くりはら田園鉄道」通称「くりでん」が同年に廃線。くりでん沿線の季節の移り変わりや、心象風景、沿線の人々、五感を刺激するにおいや音など、あるがままの姿、記憶を残す提案。Movie にて提出

デジタル卒業設計大賞 2008　(2008/6/2～9/30 募集)

選考委員　DAAS 理事　六角鬼丈氏

懇親会　美術学部学部長室 2009 年 2 月 2 日表彰 於：東京藝術大学

最終選考　5 名

六角鬼丈賞　1 名

工藤浩平（東京電機大学）パレットケース

優秀 Web 表現賞 1 名

小坂　宗義（福井大学）陰翳空間と美術館

デジタル卒業設計大賞 2009 (2009/7/1～10/31 募集)

選考委員　DAAS 理事　難波和彦氏

懇親会　2010 年 3 月 9 日表彰 於：東京大学工学部建築学科　難波和彦研究室

最終選考　3 名（難波和彦賞授与）

坂東 幸輔　(ハーバード大学大学院 GSD)「Respect for Blank Space」

香月 真大　(早稲田大学石山研究室)「Architecture of Emotional」

二本柳真里江(京都造形芸術大学建築デザインコース)「SPA MINAMO」他

デジタル卒業設計大賞 2010 (2011/11/12～2011/1/11 募集)

選考委員　DAAS 理事　古谷誠章氏

懇親会　2011 年 3 月 31 日表彰 於：早稲田大学理工学部 55 S-910　E 系サロン

最終選考　4 名

古谷誠章賞　1 名

阿部真理子（ロンドン・メトロポリタン大学　建築学部　MA Unit10 卒業）「＜オデッサ＞　空間・都市・素材　http://marrikoabe.tumblr.com/

審査、プレゼン・講評

審査

2015 年 3 月 6 日（金）より芦原太郎建築事務所 1 階サロンにおいて、第一次選考入選者 5 名を招待して行われた。

開会

DAAS 運営委員長 三塩達也氏より開会の挨拶として、DAAS デジタル卒業設計大賞 2014 の開催主旨説明を行った。

開会挨拶

DAAS 理事長、本イベント選考委員の芦原太郎氏より開会の挨拶。

第二次審査プレゼン内容・質疑・講評

第一次審査通過 6 名のうち、5 名が二次審査に出席。プレゼンテーションを行った。（一人 5 分）※プレゼンテーションと講評については文末に表記する。

表彰

第一次通過の「入選」者として賞状の授与

うちー名に DAAS デジタル卒業設計大賞芦原賞の「楯」と「賞状」を授与

芦原賞：加々美理沙　さん（東京大学）

【三次元多孔吸音体 - 「静けさ」と「開放感」の定量的分析】

全体講評・閉会

※全体講評は文末に表記。

座談会

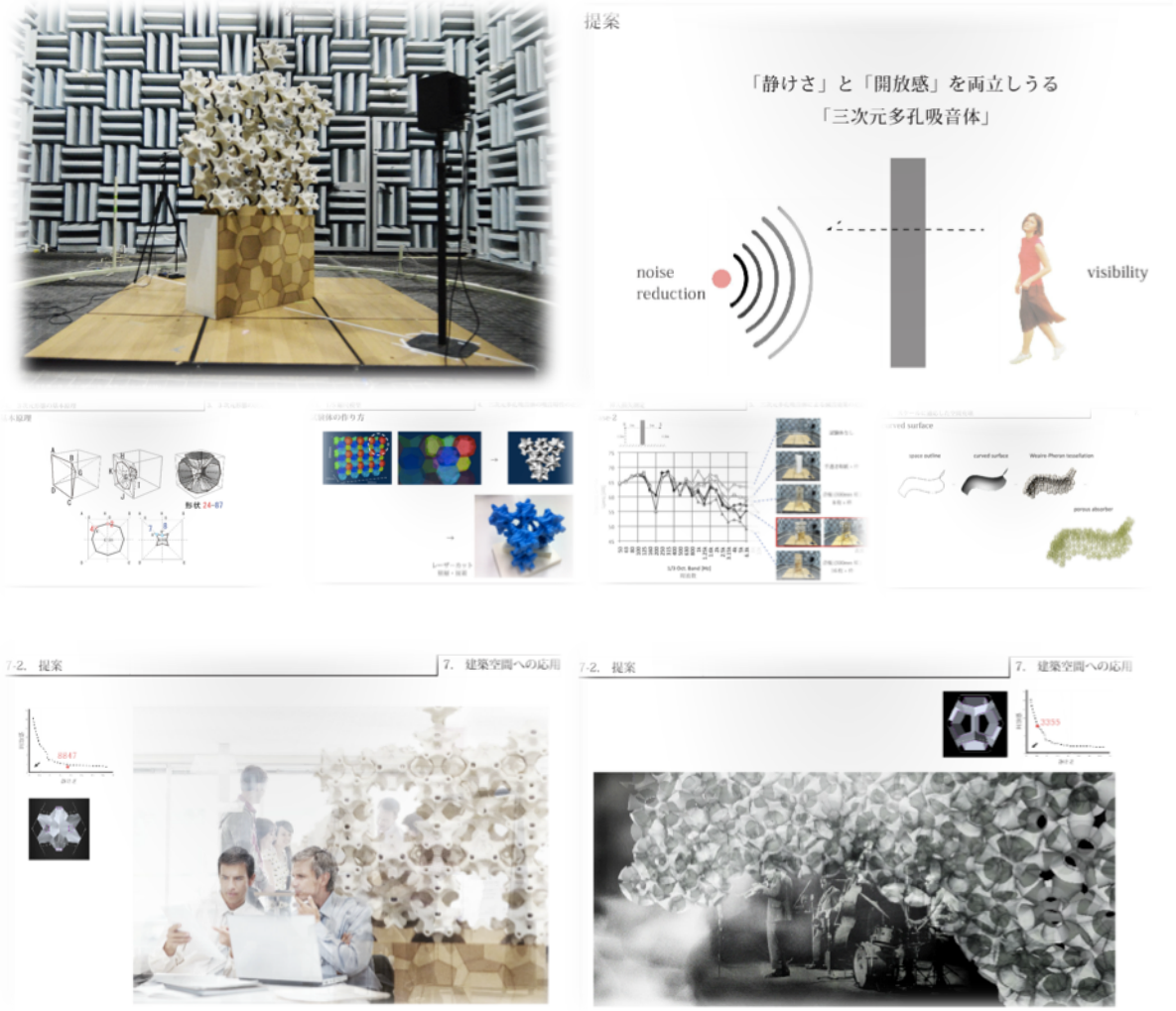
軽食等を用意し、作品についての質疑、その他歓談など。

4. 加々美 理沙（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 2015 年(2014 年度)卒業）

【三次元多孔吸音体 － 「静けさ」と「開放感」の定量的分析】

http://issuu.com/daas_sub/docs/daas2015　　fe3528779b81c3

本研究は、建築空間において「開放的」で「静けさ」を両立している場所は足りているのかという問題提起から始まる。公園や自然はもちろん開放的で静かであるが、都市のどこにでも存在するわけではない。日常生活の中で、都心の交通機関は開放感も静けさもなく、オフィスなどでは開放感を優先させて煩わしい環境になってしまったり、一方で、音を遮ろうとするあまり外部から隔絶された高速道路の遮音壁などが見受けられる。そこで、建築空間において対立する傾向にある「静けさ」と「開放感」というふたつの指標を両立しうるような吸音機構、「三次元多孔吸音体」を提案する。デジタルツールにより３次元形態の決定手法を提示し、音の複雑な現象をより把握できる模型による音響実験と、体系的な評価が可能なシミュレーション（環境をコンピュータ上で構築）を通して「静けさ」と「開放感」を定量化し、新しい音−視覚環境設計へと展開していく。



総評

一生懸命制作したものについて優劣をつけるというのは心苦しいが、それは「ある見方」であるので、褒められる人もいれば、違う見方になれば違った評価になる。評価の観点、基準を決めることで答えが出る。

卒業設計という観点から評価基準を設定すると、「コンセプト」つまり自分で課題を設定すること、「社会の問題をみて、ある想いを元に敷地を選ぶ、具体的施設を設定する」という企画・設定の部分が最初のステップだと思われる。

社会にとって意味のあることなのか、今の時代にとってどうなのか、審査員は評価することになる。「問題を的確に捉えて、建築の卒業制作という中で答えを出しているか」というところが一つ。

また、設計の場合、条件が決まると設計が決まる。その「設計自体が最初の企画内容や意図にあっているか」「なるほどと思われる設計が出来ているのか」というところがもう一つの評価の軸である。

もしくは「見た事も無い新しい空間や可能性をデザインという領域の中で実現をしているのかどうか」という点もある。

そして、それが「完成度をもって、具体的に社会の中でリアリティをもったものとしてまとまっているかどうか」という点。社会に出てプロとして設計に携わっていくであろうと期待した時に「リアリティ」があるかどうか。卒業設計のレベルであるからそれほど細かいものにないにしても学生として意識して「答えをだして行こうとしているかどうか」という点。

そのように、企画、実際のデザイン、設計内容、ある種の完成度、リアリティ、バランスを見て評価したいと思っている。

今回は、企画・社会的アプローチとしてリアリティがありそれに対して建築を使って応えたいという作品、空間を造る点で良い空間を示してくれる作品、また、見た事もないデザイン・新しいアプローチという意味で“デジタル”を使って造っていくという新しい可能性をみせてくれた作品もあった。

リアリティの点ではなかなか難しいという点はあるのだが、これから社会を出て行く為に「これは素晴らしいデザイン、空間だ」ということだけでは世の中の人が目を向けてくれるものではない。学生としてリアリティの部分を建築をして行く上で、周りの人々と一緒にシリアスに捉えながら造って行く事も大事であると思っている。コミュニティデザインなど、建築は造らずとも、新しい社会の仕組みをデザインしていくという人も出ている。公共建築を造る際にはワークショップ等をしながらリアリティ部分を補強しながら造っている状況にある。誰が使うのか、誰が費用を払うのか、誰が運営するのか、を考えるとリアリティが出てくる。それを今回の皆さんにも是非やってもらいたいな、ということを感じた.

（大賞の）加々美さんの作品は今回の主旨の「デジタル」という点で捉えると「デジタルでなければ出来ない」という領域である。今や設計の手法自体がデジタル化されつつあるとすると、設計の内容も大きく変わってくると思われる。コンピューターが設計の段階で入った事で、形の上で、複雑な姿はあるが、今回のようにシミュレーションを通して、手法を開発して制作をしたというところを評価し、また、次なる大きな展開に期待を込めて芦原賞を贈呈した。
（選考委員：芦原太郎氏総評の書き起こし）

資料2

2015年9月9日現在

第9期(2014-2015年)収支計算書(案)

2014年10月1日から2015年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額(a)	8末現在執行額	決算予定額(b)	差異(a-b)
Ⅰ　事業活動収支の部				
事業活動収入				
1　会費・入会金収入	7,260,000	6,620,000	7,260,000	0
企業会員	5,230,000	4,590,000	5,230,000	0
団体会員	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	30,000	0
個人会員	0	0		0
2　事業収入	3,050,000	3,252,500	3,252,500	△ 202,500
Webコンテンツ作成事業※	3,000,000	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	252,500	252,500	△ 202,500
3　その他収入	0	1,649	1,649	△ 1,649
受取利息	0	0	0	0
雑収入	0	1,649	1,649	△ 1,649
事業活動収入　計	10,310,000	9,874,149	10,514,149	△ 204,149
事業活動支出			0	
1　事業費支出	4,625,000	3,727,586	3,823,383	801,617
WEBサイト改修委託支出	0	0	0	0
イベント事業支出	0	0	0	0
コンテンツ整備事業支出	53,000	60,917	72,917	△ 19,917
サーバ管理委託費	1,572,000	666,669	750,466	821,534
Webコンテンツ作成事業※	0	0	0	0
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	432,000	432,000	432,000	0
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	432,000	432,000	432,000	0
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作	1,620,000	1,349,116	1,349,116	270,884
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	151,200	608,828	608,828	△ 457,628
Webコンテンツ作成事業/その他経費	364,800	178,056	178,056	186,744
保守費支出	0	0	0	0
2　管理費支出	5,443,000	2,795,398	5,277,056	165,944
事務所経費	20,500	2,402	2,402	18,098
人件費	3,360,000	1,649,475	3,298,950	61,050
法定福利費	680,000	343,421	684,860	△ 4,860
旅費交通費支出	235,000	117,095	222,306	12,694
機材費支出	150,000	97,175	135,600	14,400
通信運搬費支出	260,000	224,604	342,938	△ 82,938
渉外費支出	0	0	0	0
会議費(含総会)支出	467,500	288,427	350,000	117,500
租税公課支出	80,000	0	0	80,000
会計士外部委託費支出	160,000	0	160,000	0
雑費支出	30,000	72,799	80,000	△ 50,000
事業活動支出　計	10,068,000	6,522,984	9,100,439	967,561
事業活動収支差額	**242,000**	**3,351,165**	**1,413,710**	**△ 1,171,710**
Ⅱ　投資活動収支の部				0
投資活動収入				0
修繕引当預金取崩収入	0	0	0	0
その他固定資産取得収入	0	0	0	0
投資活動収入　計	0	0	0	0
投資活動支出				0
修繕引当預金取得支出	0	△ 70,986	△ 70,986	70,986
その他固定資産取得支出	0	0	0	0
投資活動支出　計	0	△ 70,986	△ 70,986	70,986
投資活動収支差額	0	**70,986**	**70,986**	△ 70,986
Ⅲ　財務活動収支の部				0
財務活動収支差額	0	0	0	0
Ⅳ　予備費支出				0
予備費支出	4,859,736	0		4,859,736
当期収支差額	**△ 4,617,736**	**3,422,151**	**1,484,696**	△ 6,102,432
前期繰越収支差額	**4,617,736**	**4,617,736**	**4,617,736**	0
次期繰越収支差額	**0**	8,039,887	6,102,432	△ 6,102,432

※一般社団法人住まい・まちづくり担い手支援機構が実施した、住宅・建築物による景観形成に資する活動の推進及び評価方法等の技術基盤の整備に関する事業のうち、DAASは優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWEBコンテンツ作成支援業務を受託

資料３

監　査　報　告　書

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム規約第 15 条第 4 項の規定に基づき、建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアムの第 9 期（2014-2015 年度 2014 年 10 月 1 日から 2015 年 9 月 30 日まで）の業務報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った結果、正確かつ適正であることを認めます

年　月　日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長

和田 勇　印

年　月　日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般財団法人 日本建築センター 理事長

松野　仁　印

※ 本資料は監査報告書のフォーマットであり、監事が押印した報告書の控えを総会資料に添付いたします。
９月末迄の会計帳簿、書類一式等に関して、監事による監査（10 月中旬）をおこなう予定としております。会計書類作成にあたり会計士の方に指導・確認いただき、作成いたします。また、監査に関しては会計士の方も同席いただく予定です。

議案２　第 10 期（2015-2016 年）事業計画（案）及び収支予算（案）について

資料４　第 10 期（2015-2016 年）事業計画（案）

資料５　第 10 期（2015-2016 年）収支予算（案）

資料4

第 10 期(2015-2016 年)事業計画(案)

1. 基本方針

DAAS の基本活動である「Web サイト等基本システムの維持・管理」、「収蔵データの維持・保全」を通じて、公益的活動を継続する。活動にあたり、運営委員会の下に設置した「企画運営部会」の検討により事業を推進する。

なお、第9期からの継続事業については、第10期での実施を目指す。

2. 事業計画

(1)Web サイト等基本システムの維持・管理

DAAS-Web サイト等、DAAS 基本システムの安定稼働のため、サーバ OS、周辺アプリケーションのセキュリティー対策プログラムを定期的に適用する等、サーバ保守業者とともに、引き続きサーバ環境のセキュリティー対策を継続する。

(2)収蔵データの維持・保全

Web サイト公開用画像データとは別に維持・保全している「高精細画像データ」について、データ破損、消失を防ぐ目的で、事務局内保管分(RAID 環境よる冗長性担保)のほか、外部のデータ保管専門業者のサービスを利用し、さらなる冗長性を確保している。

事務局内保管分については、RAID 環境の診断等管理によりデータ維持・保全するとともに、新規収蔵コンテンツがあった場合には、同様の維持・保全措置を講ずる。

(3)「企画運営部会」を中心とした事業推進と、運営体制安定化・強化策等に係る検討

第9期、運営委員会の下に設置した「企画運営部会」を中心とした事業推進、運営委員会との連携、今後の DAAS 活動に資する検討や、一層の運営基盤安定化検討へ向けた体制を確立する。

① 運営基盤の安定化方策検討(継続)

(ア) 法人化検討

(イ) 他機関との連携に関する事項、等

②事業計画に基づく事業実施や企画検討

③その他、運営委員会承認事項の事前検討 等

(4)コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

第9期同様、コンテンツ作成支援金(国庫補助金 300 万円)を活用し、コンテンツを整備する。対象コンテンツは「企画運営部会」において検討するものとし、予算、納期等を考慮しつつ、実施可能なものから具体作業に着手する。

［前期より継続：コンテンツ整備事業（予定）※本部会にて検討］

・団体等受賞作品の収蔵

・動画収録（DAAS 収蔵作品の建築家、アーカイブス運営者等）

・VR（ヴァーチャルリアリティ）を利用した空間画像データ

・デジタル卒業設計大賞の実施

(5) Web サイトの改善

新規コンテンツ収蔵に必要な機能追加、検索機能の改善のための機能追加を実施。

「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第 9 期よりの継続事業とする。

(6) その他

①DAAS 認知度向上等へ向けた広報等に係る活動

②その他 DAAS の目的に資する活動を実施する。

報　告

資料6　会員名簿変更について

資料7　規約第7条第4項に基づく指定代表者の
　　変更について

資料5

第10期(2015-2016年) 収支予算(案)

2015年10月1日から 2016年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	※参考:第9期予算額との差額	
Ⅰ. 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1. 会費・入会金収入	7,260,000	0	
企業会員	5,230,000	0	
団体会員	2,000,000	0	
学術・教育機関会員	30,000	0	
個人会員	0	0	
2. 事業収入	3,050,000	0	
Webコンテンツ作成事業	3,000,000	0	
コンテンツ有償利用料	50,000	0	
3. その他収入	0	0	
受取利息	0	0	
雑収入	0	0	
事業活動収入計	10,310,000	0	
事業活動支出		0	
1. 事業費支出	8,100,000	3,475,000	
WEBサイト改修委託支出	1,450,000	1,450,000	地図検索・新規ページ2本
イベント事業支出		0	
コンテンツ整備事業支出	2,500,000	2,447,000	PR記事、インフォグラフィックス、メタ修正
サーバ管理委託費	900,000	▲ 672,000	
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	450,000	18,000	新規ページ1本
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	650,000	218,000	
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作	1,200,000	▲ 420,000	
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	550,000	398,800	卒業設計大賞
Webコンテンツ作成事業/その他経費	150,000	▲ 214,800	
広報事業	250,000	250,000	FB記事
保守費支出	0	0	
2. 管理費支出	6,302,500	859,500	事務局運営に係る諸経費
事務所経費	0	▲ 20,500	専任事務局、臨時雇用者経費含む
人件費	4,080,000	720,000	
法定福利費	700,000	20,000	税率等追加分
旅費交通費支出	235,000	0	
機材費支出	150,000	0	周辺機器等購入経費
通信運搬費支出	350,000	90,000	
渉外費支出	0	0	
会議費(含総会)支出	467,500	0	
租税公課支出	80,000	0	東京都事業税
会計士外部委託費支出	160,000	0	
雑費支出	80,000	50,000	
事業活動支出計	14,402,500	4,334,500	
事業活動収支差額	▲ 4,092,500	▲ 4,334,500	
Ⅱ. 投資活動収支の部		0	
投資活動収入		0	
修繕引当預金取崩収入		0	
その他固定資産取得収入			
投資活動収入計	0	0	
投資活動支出		0	
修繕引当預金取得支出		0	
その他固定資産取得支出			
投資活動支出計	0	0	
投資活動収支差額	0	0	
Ⅲ. 財務活動収支の部		0	
財務活動収支差額	0	0	
Ⅳ. 予備費支出		0	
予備費支出	1,907,500	▲ 2,952,236	
当期収支差額	▲ 6,000,000	▲ 1,382,264	
前期繰越収支差額	6,000,000	1,382,264	
次期繰越収支差額	0	0	

注)この予算書は消費税込みで計算しております

資料６

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）
会員名簿

（順不同　敬称略）

槇　　文彦（建築家）
隈　　研吾（建築家）
六角　鬼丈（建築家）
難波　和彦（建築家）
古谷　誠章（建築家）
池原　義郎（建築家）
中島　正愛（一般社団法人 日本建築学会 会長）
三井所 清典（公益社団法人 日本建築士会連合会 会長）
大内　達史（一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長）
芦原　太郎（公益社団法人 日本建築家協会 会長）
山内　隆司（一般社団法人 日本建設業連合会 副会長）
和田　　勇（一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長）
松野　　仁（一般財団法人 日本建築センター 理事長）
井上　俊之（一般財団法人 ベターリビング 理事長）
吉田　信之（株式会社 新建築社 代表取締役）
清水　琢三（五洋建設株式会社 代表取締役社長）
山口　俊男（株式会社 奥村組 取締役専務執行役員）
六鹿　正治（株式会社 日本設計 取締役会長）
成川　哲夫（新日鉄興和不動産株式会社 取締役相談役）
早坂　善彦（前田建設工業株式会社 取締役専務執行役員 建築事業本部長）
栗山　茂樹（清水建設株式会社　専務執行役員）
平林　文明（積水ハウス株式会社 取締役専務執行役員）
河野　晴彦（大成建設株式会社 執行役員　設計本部長）
菅　　順二（株式会社 竹中工務店　執行役員　設計本部長）
亀井　忠夫（株式会社 日建設計 代表取締役社長）
小林　照雄（株式会社 大林組　常務執行役員 本社 設計本部長）
尾崎　　勝（鹿島建設株式会社 専務執行役員 建築設計本部長）
副島　伸一（住友不動産株式会社東京東ビル事業部長）
合場　直人（三菱地所株式会社 常務執行役員）
田中　孝典（株式会社 山下設計 代表取締役社長）
大江　功一（三井不動産株式会社 建設企画部長）
碓氷　辰男（東京建物株式会社 常務取締役）
村井　　純（慶應義塾大学 環境情報学部長）
西生　一次（株式会社 日建学院 代表取締役社長）
南川　陽信（大和ハウス工業株式会社　執行役員　技術本部住宅系設計推進部長）
森高　英夫（一般社団法人 日本建築構造技術者協会 会長）
浅野　　宏（公益財団法人 建築技術教育普及センター 理事長）
田辺　新一（一般社団法人 建築設備技術者協会 会長）

2015 年 10 月改訂

資料7

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）

法人会員指定代表者変更

（建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム規約　第７条第４項　関係）

（敬称略）

■ 団体会員

一般社団法人日本建築学会
〈変更前〉　吉野 博　　（会長）
〈変更後〉　中島　正愛　（会長）

一般社団法人住宅生産団体連合会
〈変更前〉　樋口　武男　（会長）
〈変更後〉　和田　勇　　（会長）

一般社般財団法人ベターリビング
〈変更前〉　那珂　正　　（理事長）
〈変更後〉　井上 俊之　（理事長）

■ 企業会員

清水建設株式会社
〈変更前〉　日置　　滋　（常務執行役員）
〈変更後〉　栗山　茂樹（常務執行役員　設計本部長）

株式会社竹中工務店
〈変更前〉　車戸　城二（執行役員　設計本部長）
〈変更後〉　菅　順二　（執行役員　設計本部長）

株式会社日建設計
〈変更前〉　岡本　慶一（代表取締役社長）
〈変更後〉　亀井　忠夫（代表取締役社長）

大和ハウス工業株式会社
〈変更前〉　秋山　一美（執行役員　技術本部　住宅系　設計推進部長）
〈変更後〉　南川　陽信（執行役員流通店舗事業推進部設計施工推進部　）

※一般社団法人日本建築構造技術者協会（変更届未受領）
〈変更前〉　金箱　温春（執行役員　技術本部　住宅系　設計推進部長）
〈変更後〉　森高　英夫（執行役員流通店舗事業推進部設計施工推進部）

2015 年 10 月 1 日付